

「食」に関する課題についての取り組み紹介と 関連技術をもつスタートアップ企業の紹介

株式会社リバネス
2023年3月11日(土)
16:00-16:50

本日の流れ

16:00-16:20 はじめに（リバネス齊藤）

16:20-16:50 スタートアップ企業からのピッチ（5分×4社）

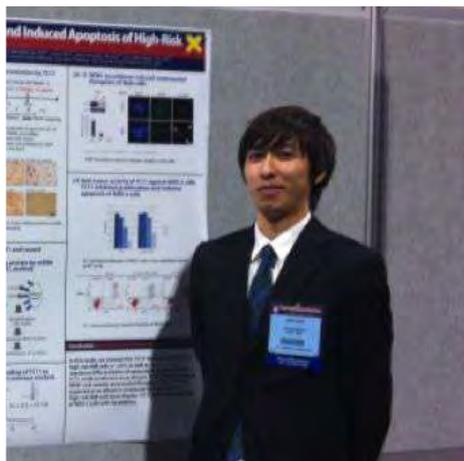
（株）グラリス「コオロギが実現する持続可能な食用タンパク質生産」

（株）エスケア「購買履歴から栄養状態を可視化し最適なレコメンドを」

（株）スマートハンドレッド「必要な量を迅速に解凍することで食品ロス抑制」

（株）ミートエポック「発酵醸成シートでKEEPフード&廃棄抑制」

自己紹介



齊藤 想聖 (サイトウ ソウセイ)

株式会社リバネス 教育開発事業部 部長

専門: 分子生物学、病態生理学
サイエンスブリッジコミュニケーター®

慶應義塾大学大学院 薬科学専攻 修了、修士（薬学）
2013年より、新卒で株式会社リバネスに入社
2021年より、リバネスの教育開発事業部 部長に就任。

株式会社リバネスという組織

企業理念

「科学技術の発展と地球貢献を実現する」



The Knowledge-based Platform

リバネス単体：69名

リバネスグループ：288名

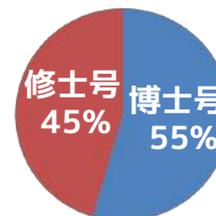


■コアコンピタンス

サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える

■構成

69名（2022年5月1日現在）



■専門性

農学・生命科学・生物学・機械工学・電子工学・情報工学・薬学・医学・心理学など

■事業内容

科学技術を活用した教育、人材育成、研究、創業に関する企画・研究・コンサルティング業務など

■社名

株式会社リバネス（Leave a Nest Co., Ltd.）

■設立年月

2002年6月14日

■資本金

7,000万円

■所在地

東京本社(東京都新宿区)
大阪本社(大阪市港区)

海外子会社

アメリカ、イギリス、
シンガポール、マレーシア、フィリピン

リバネス設立当初のコンセプト



2002年創業、リバネスは自分たち研究者のまわりにある課題を解決することからビジネスをはじめた

リバネス創業当時の日本は、ちょうど「子どもの理科離れ」が社会問題として取り上げられ始めた時期でした。ならば、理科の魅力を誰よりも知っている自分たちが、『身近なふしぎを興味に変える』というコンセプトを子どもたちに伝えにいこう。そうやって始まったのが、私たちが最初に手がけた事業である「出前実験教室」でした。

子供の理科離れ

理科と社会とのつながりが見えない
小学生・中学生が増加

ポスドク問題

博士課程入学者数に対し、就職先のない
「ポスドク」が年々増加

祖業は先端科学教育

創業以来、20万人以上に「出前実験教室」を提供

「身近なふしぎを興味に変える」をコンセプトに、小中高生に科学・技術の面白さや魅力を届ける「出前実験教室」を開始、日本で初めてビジネス化しました。今日に至るまで、20万人以上の子どもたちにその機会を作ってきました。専門性をもったさまざまな研究者スタッフとともに普段体験できないものを体験し、そして共感しあうことで、日々の学びに変化を与え、研究活動のきっかけになります。これまでにオリジナル実験教室を200以上、様々なプログラムを開発しています。



対象に合わせて科学や技術をわかりやすく伝える
(サイエンスブリッジコミュニケーション)

「出前実験教室」を通じて体感した 次世代育成と即戦力人材育成の関係性

出前実験教室は次世代育成だけでなく、異分野向けのコミュニケーションやプレゼンテーションのトレーニングに向いていることに気がつき、企業にいる研究員や技術員の即戦力人材育成、さらに自社のCSR活動にもなる。価値を組み合わせることで、複数の課題を同時に解決することができ、出前実験教室はビジネスとしてうまく回るようになりました

科学へのきっかけづくり
専門分野を楽しく教授

小学生
中学生
高校生

自己課題の発見
今の世界の仕組み理解

研究者の専門性を
活かした実験教室



次世代育成

即戦力育成

即戦力となる
理系人材の養成

理系大学院生
若手研究者
企業

自己(社内)技術・
理念の醸成

企業の課題を同時に解決する教育プログラムへと発展 次世代を育てるためのプラットフォームを構築した

同じように試行錯誤を繰り返しながら
課題を解決することでビジネスを生み出してきた

課題解決型ベンチャー

研究費の枯渇



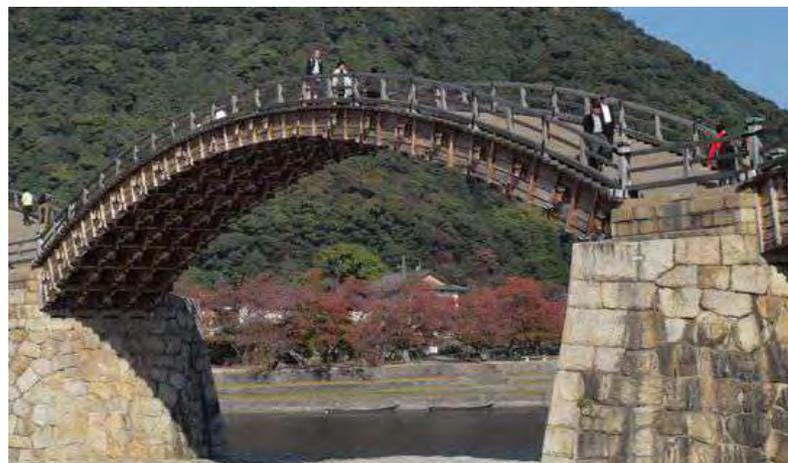
40歳以下の若手研究者向け研究費。WEBには載っていないアカデミア内のホットピックや、次世代のKOL発掘を求めて多くの企業が参画

アントレプレナー
の不足



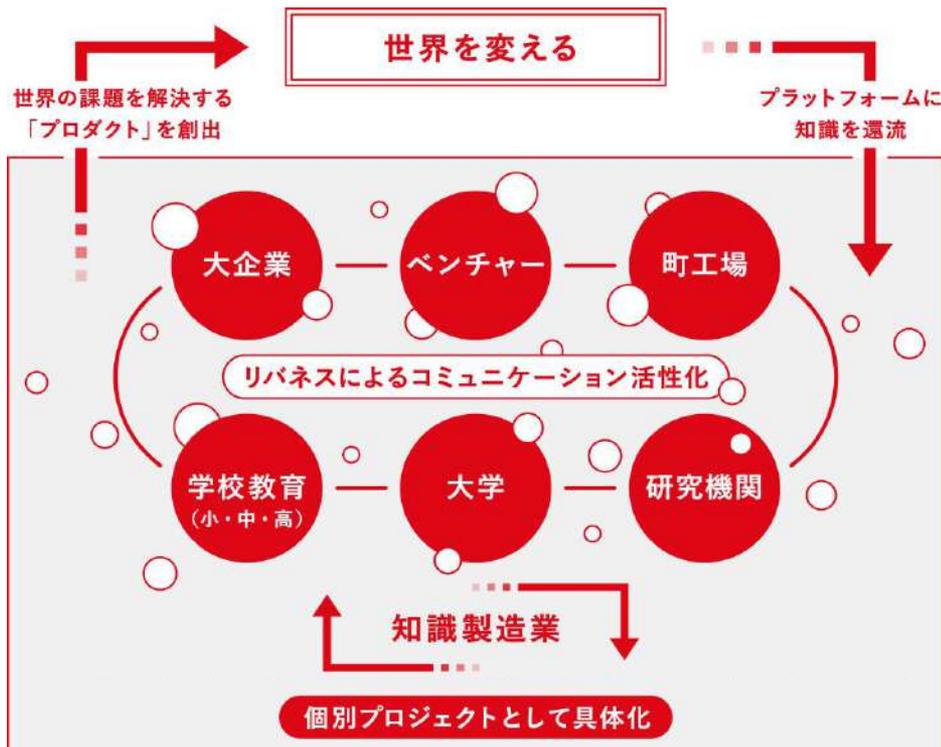
技術シーズを発掘・育成し、その集合体で世界の課題解決に挑むプラットフォーム。自社のリソースを活用し、ベンチャーと新たな課題解決型ビジネス創出に挑む企業が参画

科学・技術を「わかりやすく伝える」 サイエンスブリッジコミュニケーションの考え方で 社会の課題を解決する



科学技術の知識を集め、活用することで、 新しい知識を生み出す「知識製造業」を営む企業

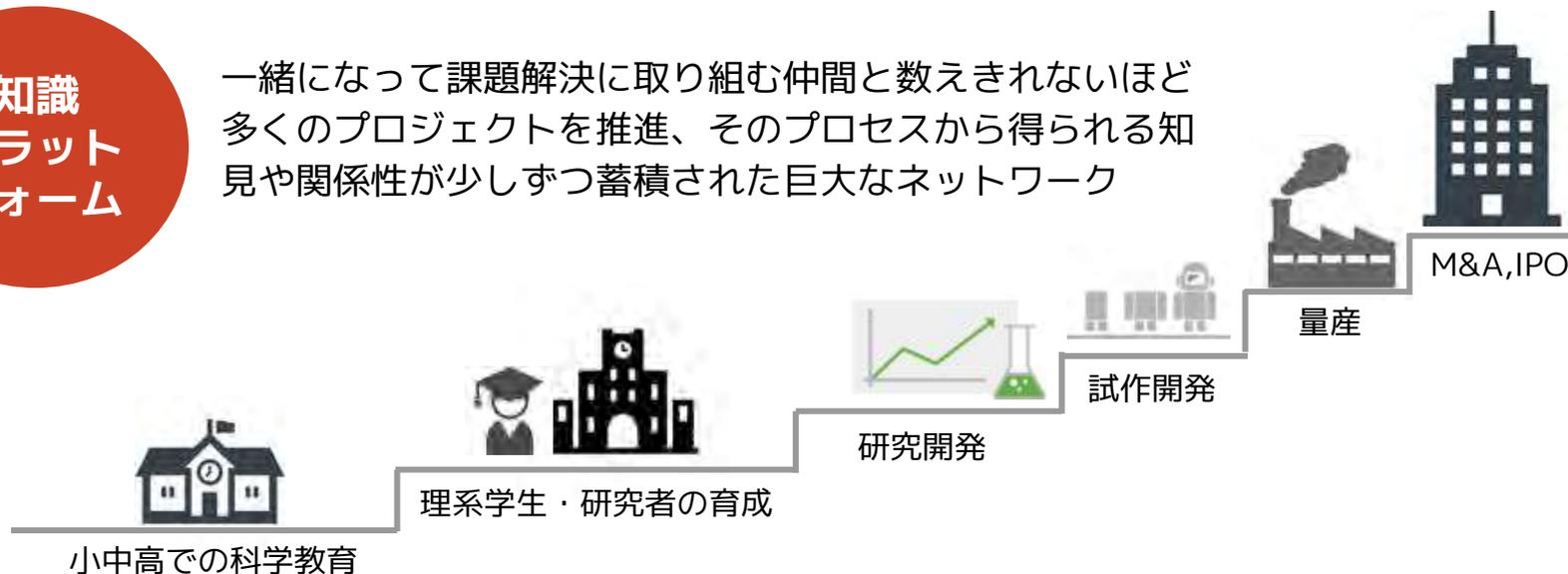
サイエンスとテクノロジーを、わかりやすく伝えること。それがリバネスのコア・コンピタンスです。例えば、最先端の研究成果を子どもたちにもわかるように伝えれば、子どもたちの頭の中には新たな「知識」が生まれることとなります。また、技術シーズを探索している企業に伝えれば、知識の組み合わせによって新たな「事業」が生まれます。こうした自らの営みを、私たちは「知識製造業」と呼んでいます。



リバネスの知識の源泉「知識プラットフォーム」

知識
プラット
フォーム

一緒になって課題解決に取り組む仲間と数えきれないほど多くのプロジェクトを推進、そのプロセスから得られる知見や関係性が少しずつ蓄積された巨大なネットワーク



ED Education Development

中高生の・先生の研究活動を
大学・企業で応援する

学校教員：2,000名
中高校生：10,000名

HD Human Resource Development

若手人材の研究キャリアを
大学・企業で支援する

若手研究者：3,500名
教授・准教授：400名

RD Research and Development

研究者の研究・開発技術移転を
企業と加速する

大学・研究機関：330機関
研究費採択人数：400名

FD Frontier Development

大企業の新規事業を
ベンチャー・大学と創出する

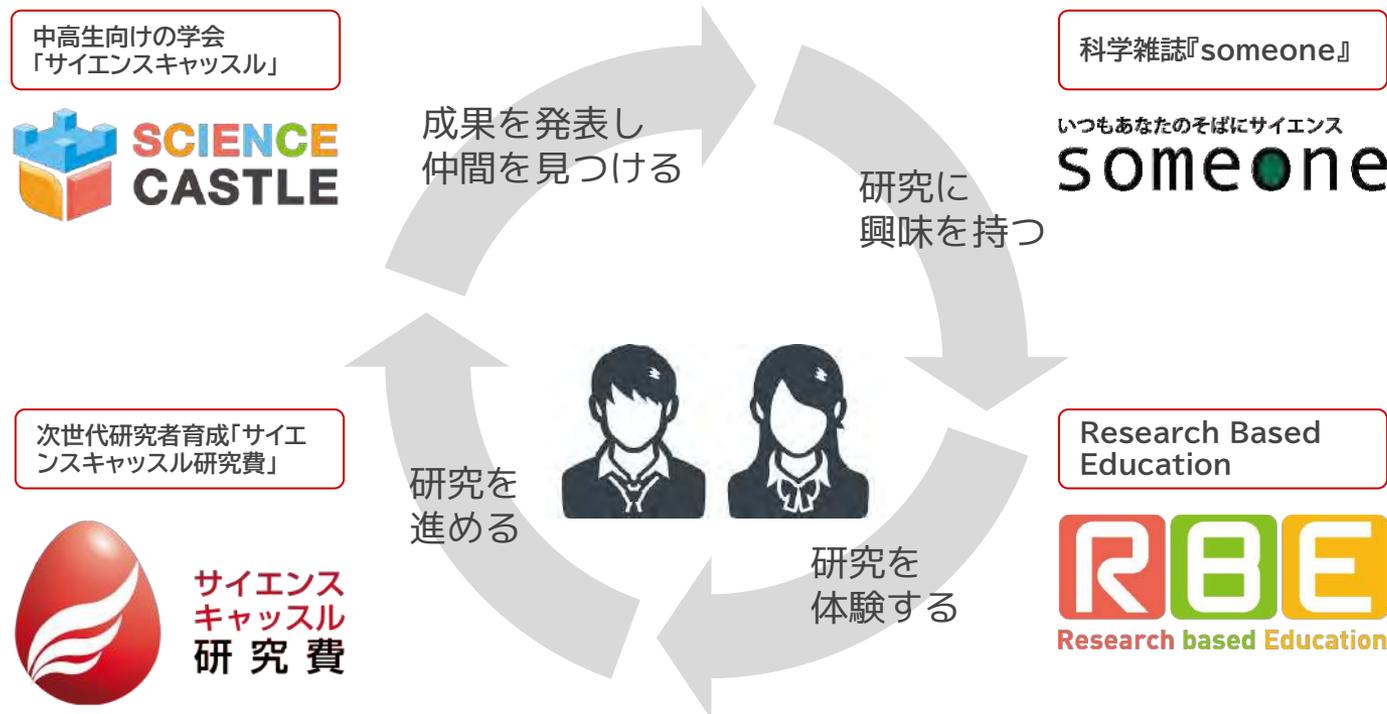
国内支援ベンチャー：1,500社
海外支援ベンチャー：1,500社

リバネスを一言で表すと、、、

科学技術と社会に橋をかける会社

「科学技術」を軸とした企業・大学との教育活動

ここ数年、学校における課題研究や探究活動の広がり、また様々な社会課題の顕在化を受け、研究・開発を行う中高生が増えてきています。リバネスでは様々なパートナー(企業・大学)とともに彼らの知的好奇心や社会貢献に向かう情熱を後押ししています。



「ゆめちから」

栽培研究プログラム

自分と、 自分以外の もうひとり

このプログラムは、
学生達自らがパン用国産小麦「ゆめちから」を栽培し、
収穫した小麦からパンをつくることで、
自分が人との繋がりの中で生きていることを学び、
自分以外の誰かのために行動できるきっかけを
与えることが目的です。

プログラム
概要

2021年度 参加校

愛知総合工科高等学校
こむぎがかり



樟蔭中学校・高等学校
Fl-Ours (フラワーズ)



鳳凰高等学校
サイエンスクラブ ファームチーム



敷島製パン株式会社との課題研究支援プログラム事例 自給率200%プロジェクト「ゆめちから」栽培研究プログラム

全国の中高生と一緒に国産小麦自給率向上への貢献が期待される超強力小麦品種「ゆめちから」の栽培研究に取り組み、日本の食料自給率向上を担う未来の人材を育成します。施肥のタイミングや量、日当たりや水の量などの条件を変えて、パン作りに最適な小麦の栽培方法を研究するとともに、パン作り実践教室や工場見学、食料自給率を考えるワークショップなども実施します。

開始：2012年～（11年目として継続中）

目的：栽培研究を通して次世代を担う子どもたちに食と自分たちのつながりについて感じてもらう

これまでの参加校：2012年以降、全国でのべ**285校**、**41都道府県**の学校が参加しています。



Research Based Education (RBE) : 課題研究支援プログラム

Research Based Education (RBE) とは、既に答えのわかっている実験を行うのではなく、誰も答えを知らない研究テーマに挑む、「本格的な研究活動の上に成り立つ教育システム」です。テーマは、貴社が実際に取り組んでいる研究開発をベースに、独自プログラムを開発していきます。中学生、高校生から研究によって新しい知識を生み出すことを目指します。

■ 企業・大学・学校がつながる研究活動

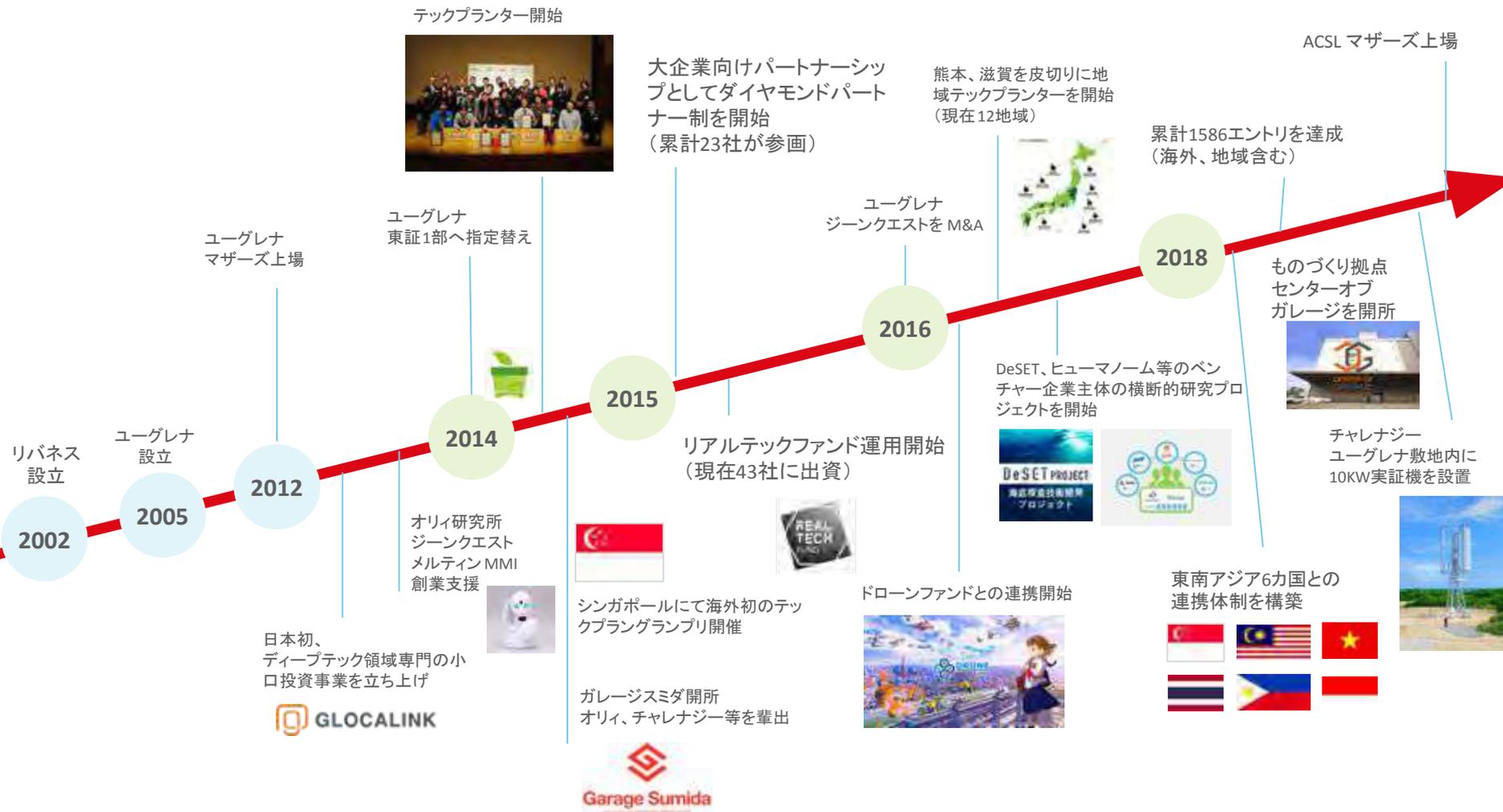


■ RBEとは



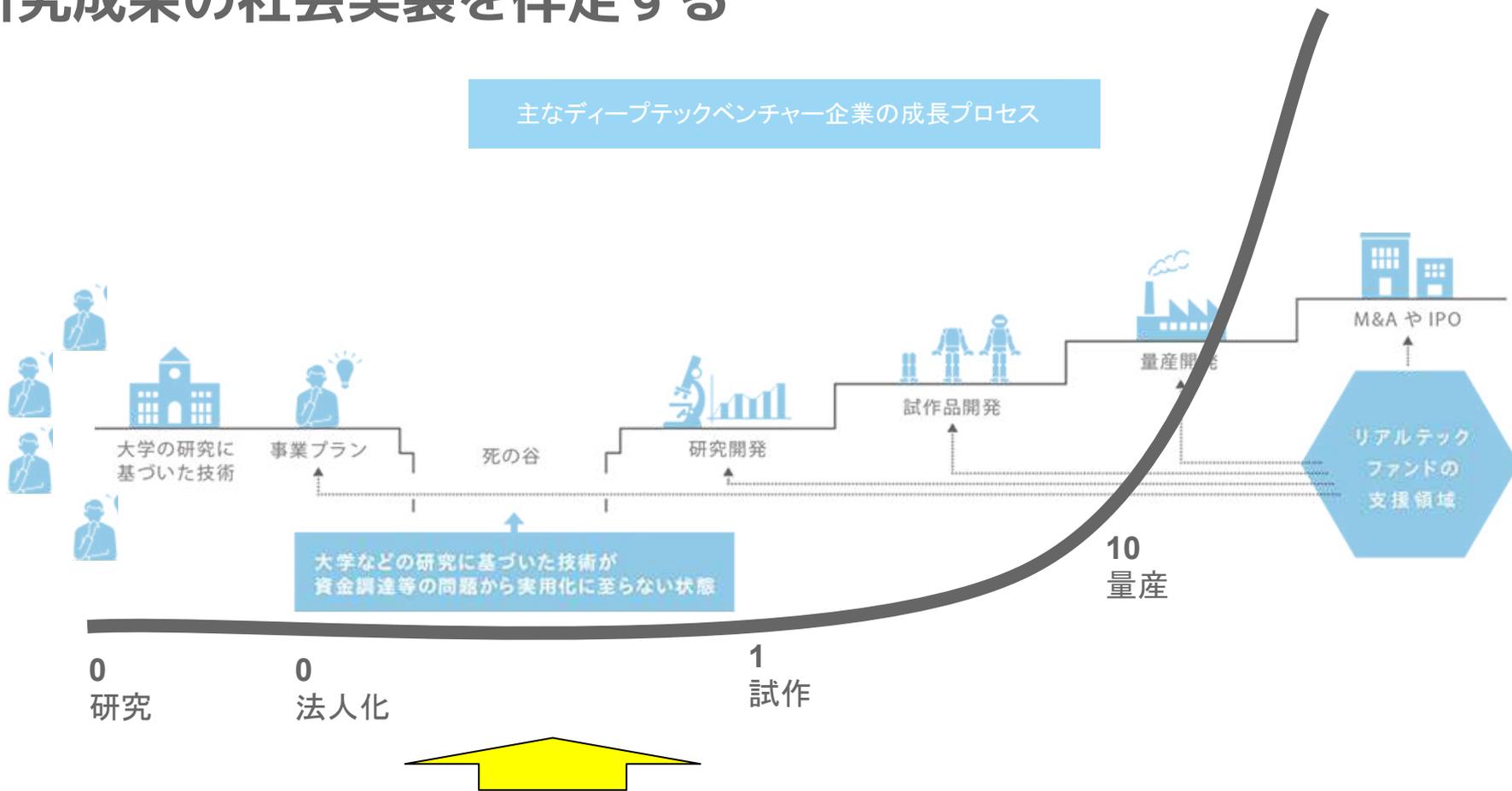
- ✓ 研究体験を通じて探究心を育む
- ✓ 新しい知識を創出する
- ✓ 大学・企業と連携した研究活動を行う
- ✓ 産業界の活動に貢献する
- ✓ 研究活動を通じて世界中の参加校がつながる

アカデミアに眠る研究成果をもっと社会実装したい



研究成果の社会実装を伴走する

主なディープテックベンチャー企業の成長プロセス

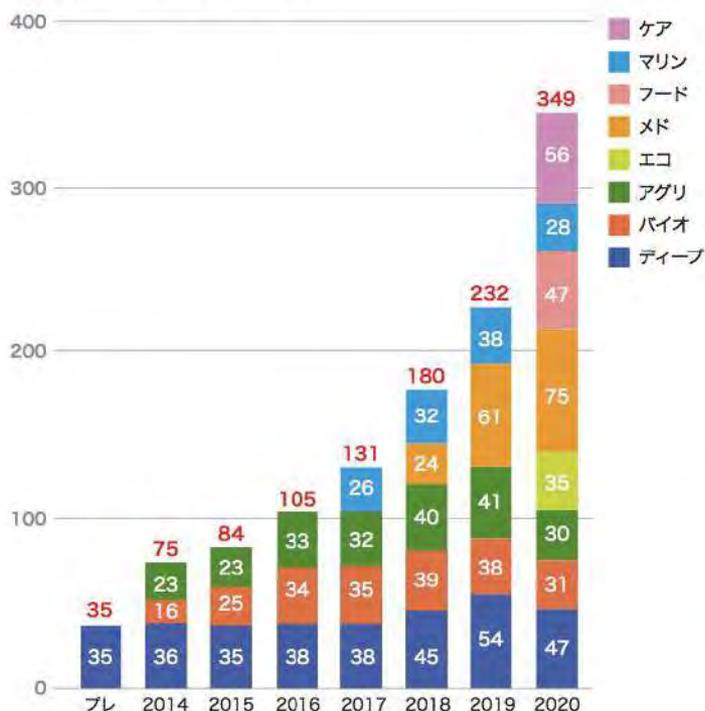


数百の研究開発型ベンチャー育成ノウハウを持つ
サイエンスブリッジコミュニケーターによる事業・製造・知財・経営支援

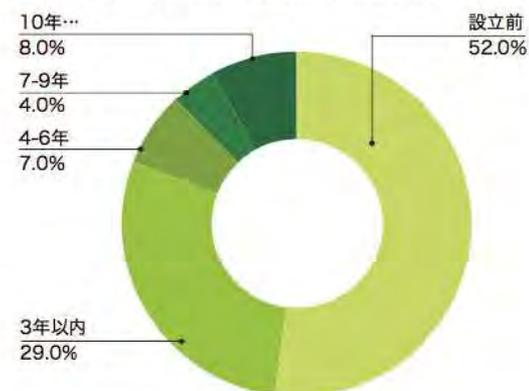
テックプランターとは

課題解決を目指す研究者と研究開発型ベンチャーがエントリー
世界の課題を解決する技術が集結

■ エントリーチーム数の推移



■ エントリーチーム/設立年数別(2020)



テックプランターとは



(2014年から2020年まで)

技術シーズを育てる鉢植え（プランター）
科学技術の社会実装プラットフォーム



Exploring Deep Tech & Solving Deep Issue

TECH PLANTER®

未解決の課題“ディープイシュー”を
科学技術の集合体“ディープテック”で解決する

テックプランターとは

テックプランターでは、7つの領域でベンチャー企業／プレベンチャーのエントリーを募っています。パートナーとの議論により選出された各領域12のファイナリストとは、デモデイを通じて領域パートナーと直接対話する場を設けています。またファイナリスト以外のチームとも、個別の場の設定や後述するミートアップ等の機会を通じて、ディープテックの集合体を作るための場づくりを進めています。



ディープテック
グランプリ



アグリテック
グランプリ



バイオテック
グランプリ



マリンテック
グランプリ



メドテック
グランプリ



フードテック
グランプリ



エコテック
グランプリ

◆2022年パートナー

57 社

42 社 9 社 6 社

テックプランター
パートナー プロフェッショナル
パートナー スーパーファクトリー
グループ

◆2021年
7領域のエントリー数

349 チーム

内、法人 163社

◆2014年以降の
全エントリー数

1858
チーム

今回は、食にまつわる課題解決に取り組むベンチャーを呼びました！

「コオロギが実現する持続可能な食用タンパク質生産」
渡邊 崇人（株式会社グリラス 代表取締役CEO兼CTO）

「購買履歴から栄養状態を可視化し最適なレコメンドを」
根本 雅祥（株式会社エスケア 代表取締役）

「必要な量を迅速に解凍することで食品ロス抑制」
佐藤 實（株式会社スマートハンドレッド 代表取締役）

「発酵醸成シートでKEEPフード&廃棄抑制」
跡部 美樹雄（株式会社ミートエポック 代表取締役）

